

科目名	教育基礎論		担当教員	龍崎 忠	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場での指導・助言の経験を生かし、教育の理念や歴史について受講者とともに検討する。				
到達目標及びテーマ	<到達目標> 1. さまざまな教育の理念や思想や歴史について説明することができる 2. これからの時代にふさわしいと思われる教育の在り方を論理的に説明できる 3. 教育学の“おもしろさ”を積極的かつ多面的に見出しそれらを説明できる <テーマ> 教育とは何か、教育とはどうあるべきかについての考察				
授業の概要	「教育とは何か」と同時に「教育とはどうあるべきか」の両者について、教育改革を含めた現代の諸動向をふまえ、教育と教育学に関する基礎的な理論や具体的な実践を交えて概説する。教育の理念・歴史・実践といった多様な観点から考察することを通じて、人間の理解と発達援助の学としての教育を、より広い視野において学ぶことを目的とする。				

授業計画	
第1回	1. ガイダンス(人間にとって教育とは何か): 教育の原理
第2回	2. 教育の意義と必要性(教科書第1章): 教育学に出会う
第3回	3. 人間形成としての教育の役割(第2章): 教育の哲学と歴史(1)
第4回	4. 学校教育と「自分らしさ」(第14章): ジェンダー
第5回	5. 先生になるということ(第10章): 教師として働く
第6回	6. 私たちはどう学んでいるのか(第11章): 学ぶということの意味
第7回	7. 教育に評価は必要か(第6章): 学びと評価
第8回	8. 情報社会のなかの教育(第9章): 学び方の多様性
第9回	9. 科学技術と教育(第12章): これからの学びの姿
第10回	10. グローバル社会のなかの教育(第16章): 共生社会
第11回	11. 道徳に答はあるのか(第4章): 道徳教育
第12回	12. 「子どもの発見」(第3章): 教育の哲学と歴史(2)
第13回	13. クリティカルに生きるということ(第8章): ペダゴジーとしての教育
第14回	14. 教育と平等(第7章): 社会づくりとしての教育
第15回	15. ケアリングとしての教育(第13章): 教育学を広げる

事前学修	2	あらかじめ教科書の当該部分を丁寧に読み、うまく理解できない用語や内容を調べておく。
事後学修	2	取り上げた内容について理解や関心が深まったものをさらに調べる。
フィードバックの方法	リアクションペーパーについてはコメントを付して次回に返却する。内容に応じて全体でシェアする。	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	70%	毎回テーマに係るワークを交える
レポート	30%	期末のレポートを実施する
定期試験	0%	定期試験については実施しない

補足事項	木曜4限に開講する同名の「教育基礎論」とは、内容も教科書も異なるので注意すること
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教育原理を組みなおす	松下晴彦・伊藤彰浩・服部美奈 編	名古屋大学出版会	4815810450	なし
参考資料				